

pHコントロール剤・抗菌剤

# パラファイン PHC-50P

(PARAFINE PHC-50P)

パラファイン PHC-50P は、生地を人の肌と同じ弱酸性のpH 領域に保つことができる加工剤で、従来では難しかったポリエステル繊維に対して洗濯耐久性を付与します。また、洗濯耐久性のある抗菌防臭性能も持ち併せています。綿用に関しましては、風合いに優れる、パラファイン PHC-50 を推奨します。

人の肌は皮脂膜の働きによりpH を弱酸性に保ち、外部からの刺激や雑菌の繁殖を抑える働きがあります。この皮脂膜が加齢や体調の変化、ストレスなどにより減少すると、肌を弱酸性に保てなくなり、肌荒れやお肌の乾燥の原因となります。

つまり、「弱酸性キープ」=「お肌に優しい」ということとなります。

## 特徴

1. pH 緩衝作用により、繊維表面を人の肌と同じ弱酸性に保ちます。
2. 耐久性のある抗菌防臭性能があります。
3. ポリエステル繊維に対して耐久性があります。

## 性状 及び 標準使用方法

外 観	: 褐色透明液体
成 分	: 特殊アクリル樹脂
p H	: 3.0±1.0
粘 度	: 1000 (mPa・s)以下
イオン性	: アニオン

適応素材	: ポリエステル
使用量	: パラファイン PHC-50P 8~10%soln.
	キャタリスト AQH 2~3%soln.
	※パラソルブ PET 1~2%soln.
(※ポリエステル繊維で吸水未処理の場合に併用)	

標準処理条件:パディング処理 → マングル絞り → 乾燥 → 熱処理(140°C以上×2分)

- \* 加工素材及び併用加工剤に応じて処理条件を設定して下さい。
- \* 熱処理後に水洗処理を行うと、風合いが柔らかくなります。


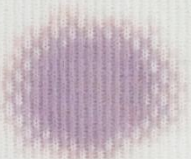






## 応用例(各種加工条件)

- ・ pH 調整効果例、抗菌性評価例の加工条件

<b>加工条件</b> パディング処理 パラファイン PHC-50P 8% キャタリスト AQH 2% 絞り率 95% 乾燥 110°C × 3 分 → 熱処理 160°C × 2 分	<b>生地</b> ポリエステルニット(吸水処理布) <b>洗濯条件</b> JIS L-0217 103 法(JAFET 洗剤) 吊り干し
---	--

## pH 調整効果例

アルカリ性や酸性の試験液を垂らすと、未加工布では色の変化はないが加工布は弱酸性を示す色に変化する。

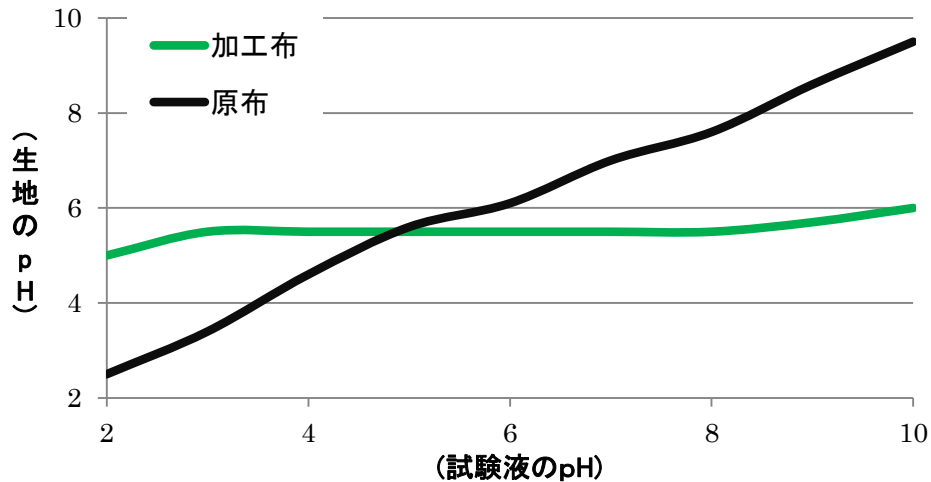
	試験液	未加工布	加工布	加工布 (洗濯 10 回)
酸				
アルカリ				

## 判定基準

呈色試験液	色 (pH)	弱酸性の色 (pH)
酸性 (希硫酸+コンゴレット)	紫(3.0 程度)	赤色(5 以上)
アルカリ性 (NaOH +BTB)	青(8.0 程度)	黄緑(6 以下)

## pH 緩衝性の検証

pH を 2~10 に調整した試験液を生地に滴下し、pH の変化を測定した。  
加工布がアルカリ性側、酸性側共に弱酸性に調整されていることがわかる。



## 抗菌性評価例

静菌活性値: 2.2 以上で合格

試料	静菌活性値	評価
初期	4.0 以上	合格
洗濯 10 回	4.0 以上	合格

### 試験方法

繊維評価技術協議会に準拠

試験菌 : 黄色ブドウ球菌

洗濯条件 : JIS L-0217 103 法 (JAFET 洗剤)

## 使用上の注意

1. アニオン性ですので、カチオン性物質との併用は避けて下さい。
2. 処理浴に酸、アルカリなどの添加をしないでください。
3. 併用する薬剤によっては効果が阻害される場合がありますので、前もって御確認ください。
4. 若干の黄変や色物の変色の可能性がありますので予めご確認下さい。
5. マングル等が乾燥しますと処理液が粘稠になる可能性があります。長時間加工の場合は、適宜水で洗って下さい。

ここに記載された資料内容は、細心の注意を払って行った社内試験に基づくものですが、御使用に際しましては十分に御試験の上、御使用下さい。また、取扱いに関しましてはSDSを御参照下さい。